

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	幸区第1グループ(南河原・幸・下平間)	評価対象年度	平成28年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日～平成31年3月31日	所管課	子ども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	H27		H28		H27		H28	
	1 南河原子ども文化センター ①年間延べ利用者数	52,481人	56,051人	②年間延べ利用団体数	1,018団体	1,238団体		
2 南河原小学校わくわくプラザ ①登録者数	177人	183人	②年間延べ利用者数	11,277人	11,976人			
3 幸小学校わくわくプラザ ①登録者数	295人	310人	②年間延べ利用者数	21,212人	21,900人			
1 幸こども文化センター ①年間延べ利用者数	37,667人	39,259人	②年間延べ利用団体数	399団体	406団体			
2 戸手小学校わくわくプラザ ①登録者数	409人	386人	②年間延べ利用者数	24,897人	22,269人			
3 御幸小学校わくわくプラザ ①登録者数	387人	394人	②年間延べ利用者数	24,573人	24,987人			
4 西御幸小学校わくわくプラザ ①登録者数	165人	169人	②年間延べ利用者数	10,680人	10,779人			
1 下平間子ども文化センター ①年間延べ利用者数	28,225人	28,019人	②年間延べ利用団体数	462団体	481団体			
2 下平間小学校わくわくプラザ ①登録者数	227人	240人	②年間延べ利用者数	14,541人	16,877人			
3 古市場小学校わくわくプラザ ①登録者数	171人	170人	②年間延べ利用者数	9,842人	10,168人			
4 古川小学校わくわくプラザ ①登録者数	442人	429人	②年間延べ利用者数	25,304人	24,646人			
収支実績	単位:円 1 収入 指定管理料 182,857,002 2 支出 人件費 143,336,192 管理費 11,162,663 事務経費 8,714,432 その他経費 12,083,929 合計 175,297,216 3 差引 7,559,786							
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、館の活動や運営に反映した。また、事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など、地域を越えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施した。							

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進及び事業成果	「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。	10	4	8
		「事業計画」に基づき、着実な事業の推進がなされているか。			
		「こども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。			
		「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全な育成が図られているか。			
	(評価の理由) ・仕様書・事業計画に基づき、こども文化センター事業及びわくわくプラザ事業を適正に実施した。 ・市内各区内で、複数館を運営する運営法人のスケールメリットを活かした、全施設・区内合同事業を行うことで、子ども達が地域の枠を越えて交流を深めている。 ・各こども文化センター・わくわくプラザは、運営協議会、老人福祉センター、区役所等との共催事業を実施するほか、各種事業に、中学生ボランティアの参加、職業体験の受け入れ、地域講師の招聘等を行うことで、保育園、学校、ボランティア、地域の各団体等、多数の地域住民が参加しており、多世代交流・地域交流を通じた地域活動の拠点として、関係機関や市民活動団体を結び付ける場としての役割を果たしている。 ・また、各わくわくプラザでは、子どもの心と身体を元気にする取組として「わくドキタイム」を試行的に実施するとともに、子どもの身体活動と健康についての理解を深める研修を実施するなど、次年度の本格実施に向けた新規事業に取り組んだ。 ・特に、南河原こども文化センターにおいては、音楽室設置館の利点を活かし、ボランティアとの協働による「けいおんクラブ」を発足、グループ合同でのライブやナイトコンサートを開催するなど、館の特色を活かした事業に取り組んだことで、昨年に引き続き、利用者は大幅に増加している。 ・これらの取組により、第1グループ全体の利用者数が約4,900人、利用団体が約240団体昨年度より増加している。				

サービス向上及び業務改善	利用者ニーズ	サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。	10	4	8
		利用ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。			
		苦情対応など、利用者への適切な対応が図られているか。			
	特別な配慮を要する利用者への対応	特別な配慮を要する利用者への対応が適切になされているか。	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体等との連携がなされているか。	10	3	6
	施設・事業の広報	施設を知ってもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。	5	4	4
	運営協議会の実施	「こども文化センター運営協議会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3
保護者懇談会の実施	「わくわくプラザ保護者懇談会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者ニーズについては、事業実施後のアンケート、館内設置の意見箱、行事参加者とのコミュニケーション等から適宜把握し、子どもの意見を反映した図書や遊具の選定、要望のあったカードゲーム大会、デイキャンプなどを新規実施したことにより、利用者の増加につながった。 また、出された意見への回答、返事を掲示することで、自分の意見がどのように反映されているかについてを伝えており、意見・要望等は職員間で共有され、適切な対応が図られていた。 特別な配慮を必要とする児童への対応については、保護者からの聞き取り、学校との情報交換等により、一人一人の状況を把握し、職員間で共有をしつつ、個別のタイムスケジュールを作成し、適切な対応を図るとともに、巡回相談員による研修・相談を児童の対応に活かしている。 学校及び行政機関との連携については、小学校の会議、学校行事への参加に加え、中学生の職業体験や大学生の実習の受入れ、社会福祉協議会のボランティアの参加などを通じて、地域との連携に取り組んでいる。 施設・事業の周知については、たよりの発行のほか、地域広報誌、インターネット、ラジオ等、様々な媒体を活用しており、特に、南河原こども文化センターでは、各イベントの様子を写真で館内に分かりやすく掲示し、来館者に対しPRを行うとともに、中学生に向けた、たよりを年4回発行し、音楽室を積極的に広報することで、利用者の増加につなげている。 運営協議会及び保護者懇談会については、事業計画通り開催し、保護者の意見、要望の把握に努めており、保護者からの要望を受けた新たな道案内を設置するなど、事業への反映に取り組むとともに、保護者が参加しやすい開催時間を設定することで参加者の増加につなげていた。 					
組織管理体制	適正な人員配置	「児童福祉施設の設置及び運営の基準に関する条例」第54条に基づく職員配置がなされているか。	10	3	6
		「仕様書」において定める職員配置の最低基準が順守されているか。			
		「川崎市公契約条例」が遵守されているか。			
	職員の研修体制	職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。	10	4	8
		職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。			
個人情報等の取扱	法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。	5	3	3	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人員配置については、こども文化センター及びわくわくプラザにおいて、適正に職員が配置され、利用児童数や特別な配慮を必要とする児童などの利用状況に応じて、適時、職員を加配しており、円滑に事業運営が行われている。 研修体制については、運営法人の10年以上にわたる青少年分野における人材育成のノウハウを活かし、全市・グループ・館ごと、職位ごと、分野ごとの研修など、体系的・計画的かつ多様な研修が行われており、受講者はスタッフ会議、ミニミーティング等の時間を有効に使い、研修内容についての情報共有を図っている。 特に、幸区内のこども文化センターは、中学生の利用が多いことから、区合同では「不登校児対応研修」、各こども文化センターでは「中学生・高校生の居場所づくり」、「中学生対応について」研修を行う等、多感な時期の中学生への対応に活かしている。 個人情報等の取扱については、個人情報保護方針、取扱規定を定め、管理体制が整備されており、個人情報の取扱いが適正に行われている。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な施設利用のため、施設や設備の保守・点検を適切に行っているか。	5	3	3
		必要に応じて適切な維持・補修がなされているか。			
		備品等の管理が適切になされているか。			
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保するための体制が整っているか。	5	3	3
		事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。			
		事故防止や感染症予防対策等が事前に図られているか。			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯対策に工夫がなされているか。	5	3	3
		災害発生時に備えた対応が図られているか。			
		災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> こども文化センター・わくわくプラザともに、施設・設備の保守点検を日常的に行い、必要な修繕、備品の管理が適切に行われている。 利用者の安全確保に向け、グループ全職員の普通救命講習の受講、AEDの実習訓練、事例検討等を実施し、事故防止に努めるとともに、積極的な見守り・声掛けによる事故防止対応、アレルギー対応、衛生管理等を適切に行っている。 防犯対策及び災害時の対応として、館ごとに地域の安全マップを作成し、利用者の意識向上を図るとともに、不審者対応マニュアルの作成、不審者対応・災害時対応研修の開催、災害備蓄品の常備、避難訓練の実施等、防犯・防災体制の強化に取り組んでいる。 					

収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。	5	3	3
	効率的・効果的な支出	「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。	5	3	3
		効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。			
		支出に見合う効果が効果が得られており、サービス水準も確保されているか。			
(評価の理由) ・金銭管理・会計手続については、適正に行われている。 ・受託20グループ52施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取組により、効率的・効果的な経費の支出がなされている。					

4. 総合評価

評価点合計	67	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

こども文化センター及びわくわくプラザの管理運営を長年に渡り行ってきた経験を活かし、安定した施設運営を実施している。
また、各種イベントを実施する際には、子どもや地域ボランティアが自ら行事の企画・運営に参加するなど、こども文化センターの目的である、青少年の健全育成・社会参加に大きく貢献していると言える。
さらに、学校や行政、地域の各団体等と連携した事業展開も行っており、特に、近隣の中学校との連携による職業体験の受入や不登校児童の居場所づくり等、近年、喫緊の課題となっている中高生の居場所づくりに積極的に取り組んでいるなど、地域社会全体で子どもを見守り育てる、安全・安心な居場所の一つとしての役割を十分担っていると言える。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後も、地域社会全体で子どもを見守り育てる、安全・安心な居場所となるよう、環境整備や職員のスキル向上に努め、学校、行政、地域の各団体が共に連携しながら地域づくりを進めることで、職員と子どもも顔の見える関係を築き、小中高生から高齢者まで、多世代にとって、居心地のよい場となるよう努めること。